



2020年10月期 第2四半期決算説明資料

株式会社オハラ(証券コード:5218)

Jun.11th.2020



CONTENTS

1 2020年10月期 上期決算の概況

- 業績のポイント
- 新型コロナウイルス感染症の影響
- 業績サマリー
- 光事業
- エレクトロニクス事業
- 営業損益増減要因
- キャッシュ・フロー

2 2020年10月期 業績見通し

- 通期見通しサマリー
- 光事業見通しのポイント
- 光事業見通し
- エレクトロニクス事業見通しのポイント
- エレクトロニクス事業見通し
- 設備投資、減価償却費、研究開発費
- 中期経営計画主要施策の進捗

2020年10月期 上期決算の概況

売上高は光学ガラスやナノセラム™の減少等により減収、損益は生産設備の稼働率低下等により営業損失

外部環境

- デジタルカメラ市場は、従前からの需要減少傾向に加えて、20/10月期第2四半期後半からは、新型コロナウイルス感染症の影響により、更に需要が減少
- 露光装置市場は、FPD向けは弱含み、半導体向けは設備投資に改善傾向

当社業績

- 光事業では、光学機器用レンズ材の需要が大幅に減少。エレクトロニクス事業では、光通信向け硝材の需要は増加したもののスマートフォン筐体向け硝材「ナノセラム™」においてサプライチェーンの工程認定に遅延が生じたことなどから売上高は大幅な減収
- 営業損益は、生産設備の稼働率低下、棚卸資産の評価減、新しい熔解炉の研究開発費などを計上したことにより営業損失

セグメント利益の

測定方法変更

- 19/10期2Qより、組織変更に伴い一部の費用の配賦方法を変更
19/10期上期における影響額は、光事業+35百万円、エレクトロニクス事業△35百万円

光事業は中国、マレーシアの拠点で一時稼働を停止、4月末時点では全拠点で稼働を再開

光事業への影響について

日本、台湾では、稼働停止等の大きな影響はでていない。
中国では、広東省と湖北省に生産拠点があり、両拠点ともに1月下旬から稼働を停止。
広東省の生産拠点では2月中旬、湖北省の生産拠点では3月中旬より稼働再開。
マレーシアでは、マラッカに生産拠点があり、3月中旬から稼働を停止。4月下旬より稼働を再開。

エレクトロニクス事業への影響について

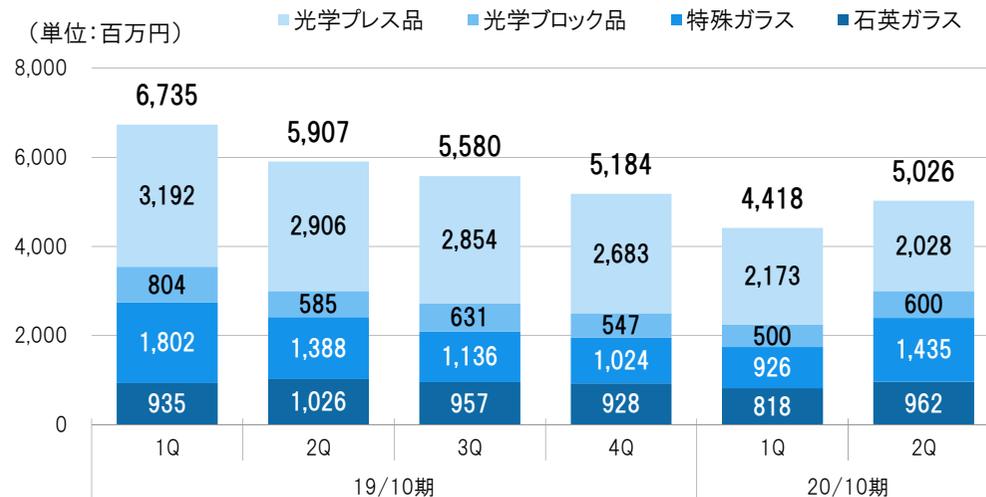
エレクトロニクス事業では、神奈川県、山梨県、和歌山県に生産拠点があり、
感染防止対策を行ったうえで通常稼働しており、稼働停止等の大きな影響はでていない。

米国、ドイツ、香港、などの海外販売拠点は、移動制限の影響はあるものの、
テレワークなどを活用して営業活動を継続

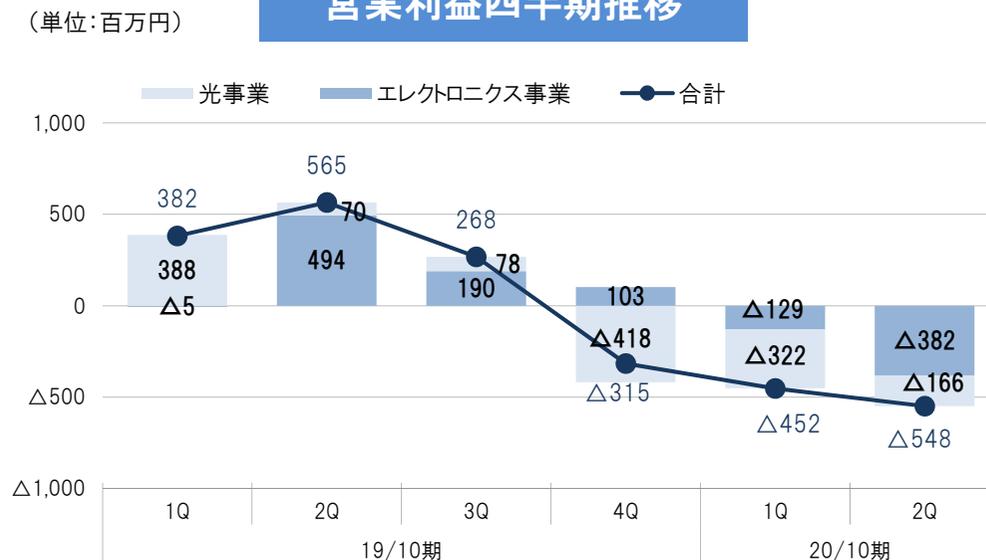
(単位:百万円、%)

	19/10期 上期	20/10期 上期	増減 増減率
売上高	12,642	9,444	△3,197 △25.3%
営業利益	947	△1,000	△1,948
[営業利益率]	7.5%	△10.6%	—
経常利益	1,056	△897	△1,953
[経常利益率]	8.4%	△9.5%	—
純利益 (親会社株主に帰属)	148	△1,134	△1,283
[純利益率]	1.2%	△12.0%	—
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 111.41 126.32	期中平均 108.80 119.87	

売上高四半期推移



営業利益四半期推移

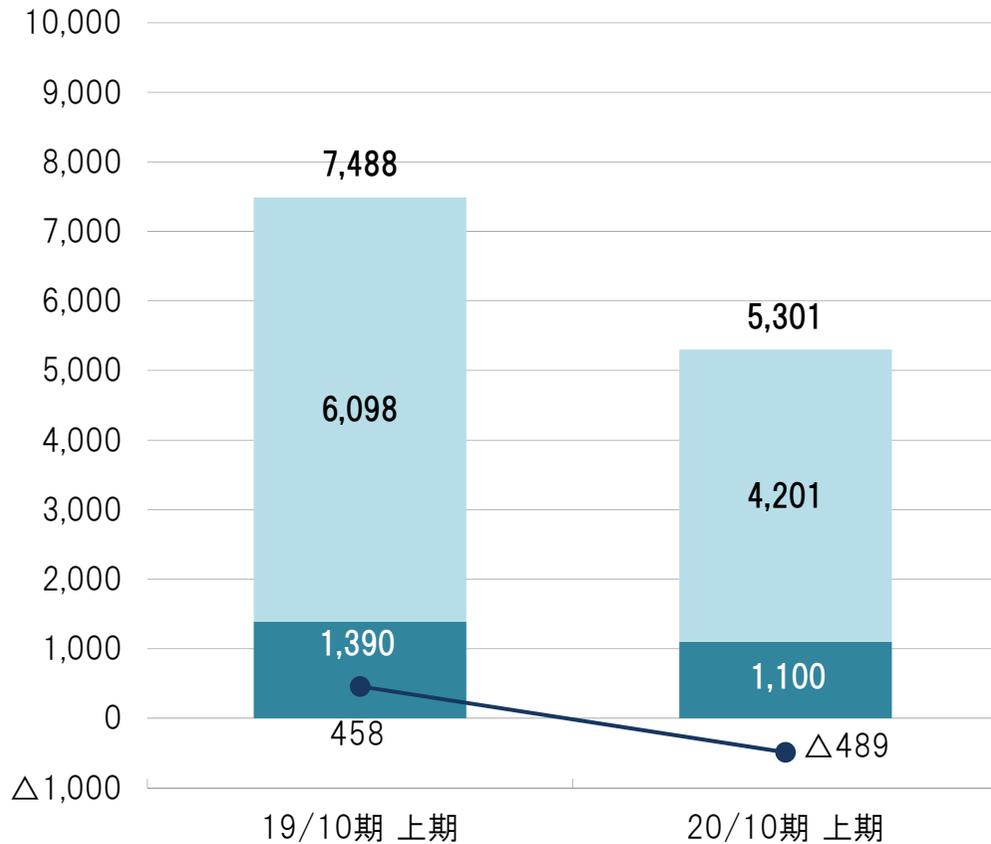


※19/10期 1Qは遡及修正しております

上期対比

光学プレス品売上高 光学ブロック品売上高 営業利益

(単位:百万円)

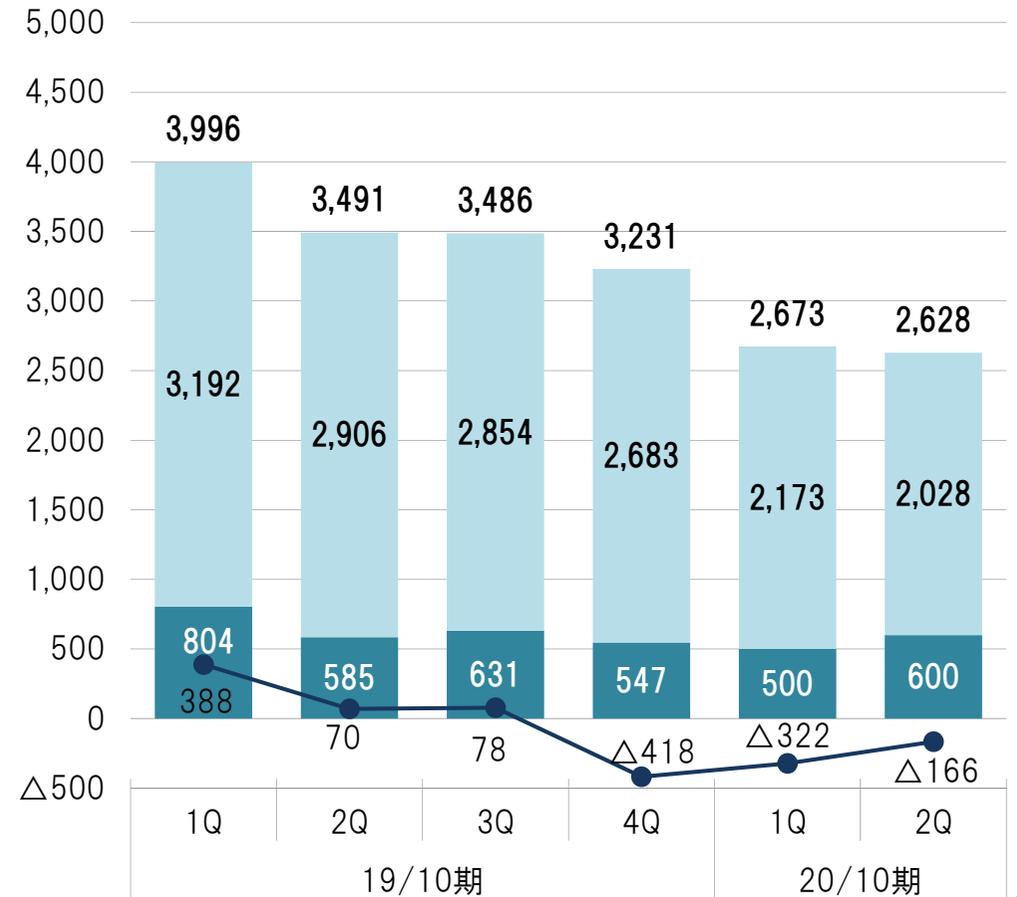


※19/10期 上期は遡及修正しております

四半期推移

光学プレス品売上高 光学ブロック品売上高 営業利益

(単位:百万円)

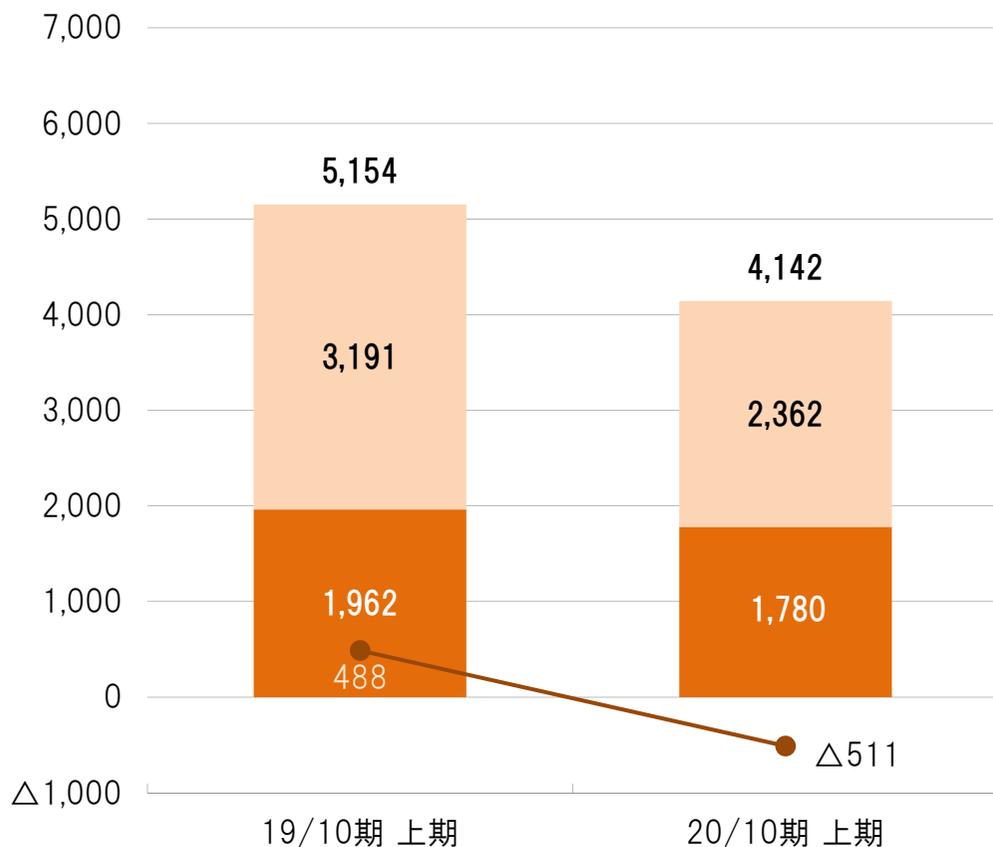


※19/10期 1Qは遡及修正しております

上期対比

特殊ガラス売上高 石英ガラス売上高 営業利益

(単位:百万円)

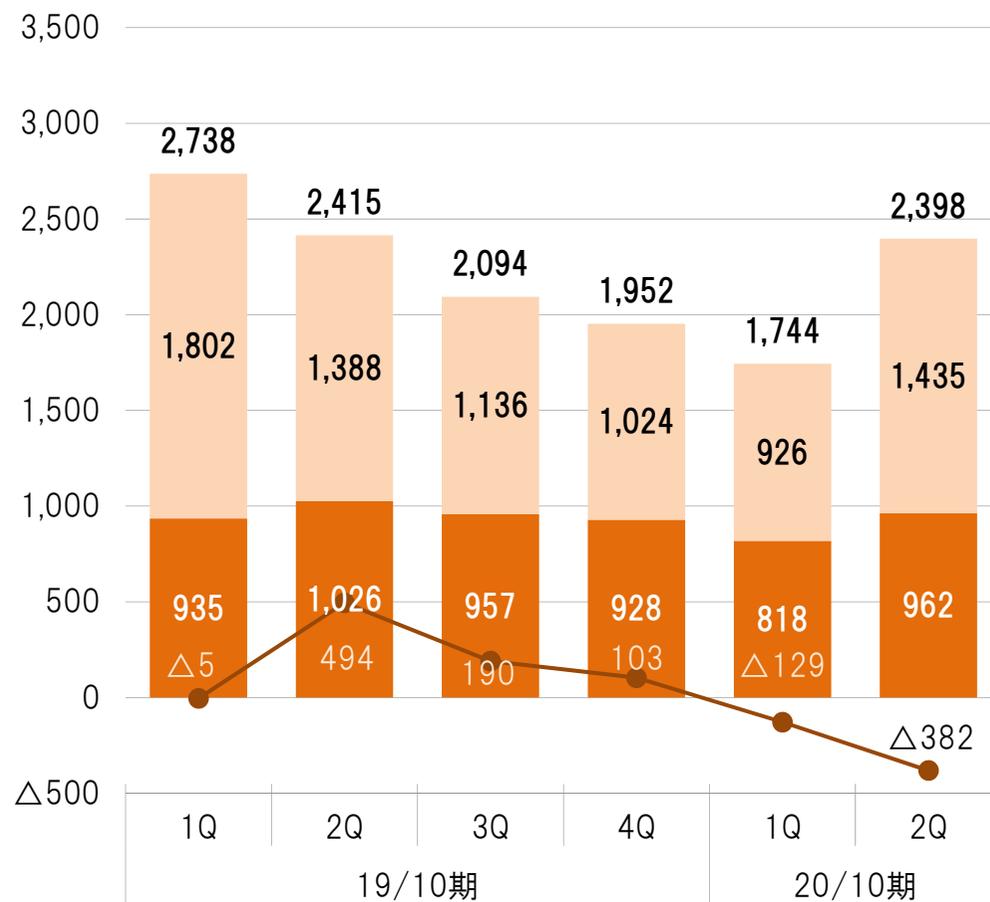


※19/10期 上期は遡及修正しております

四半期推移

特殊ガラス売上高 石英ガラス売上高 営業利益

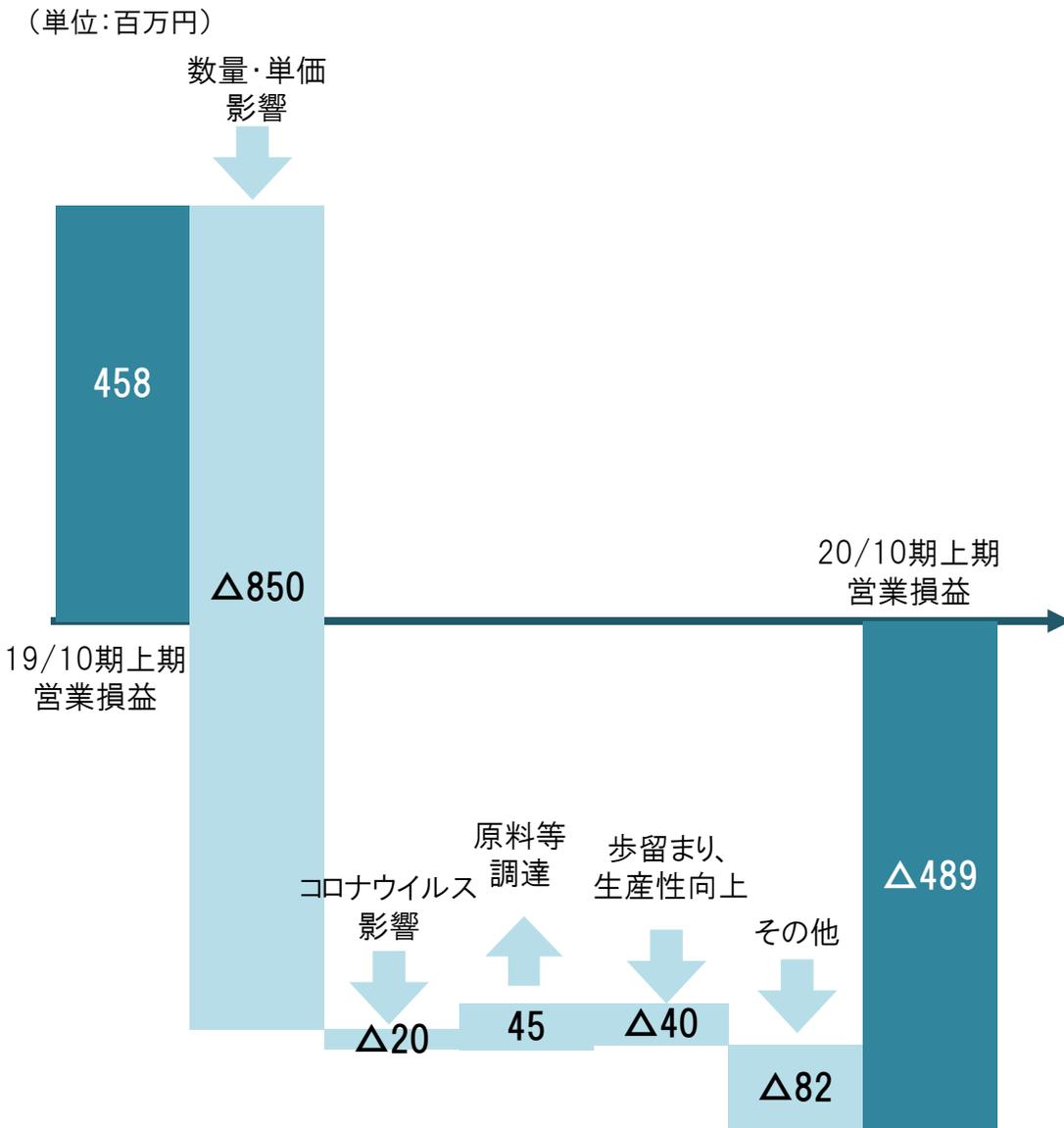
(単位:百万円)



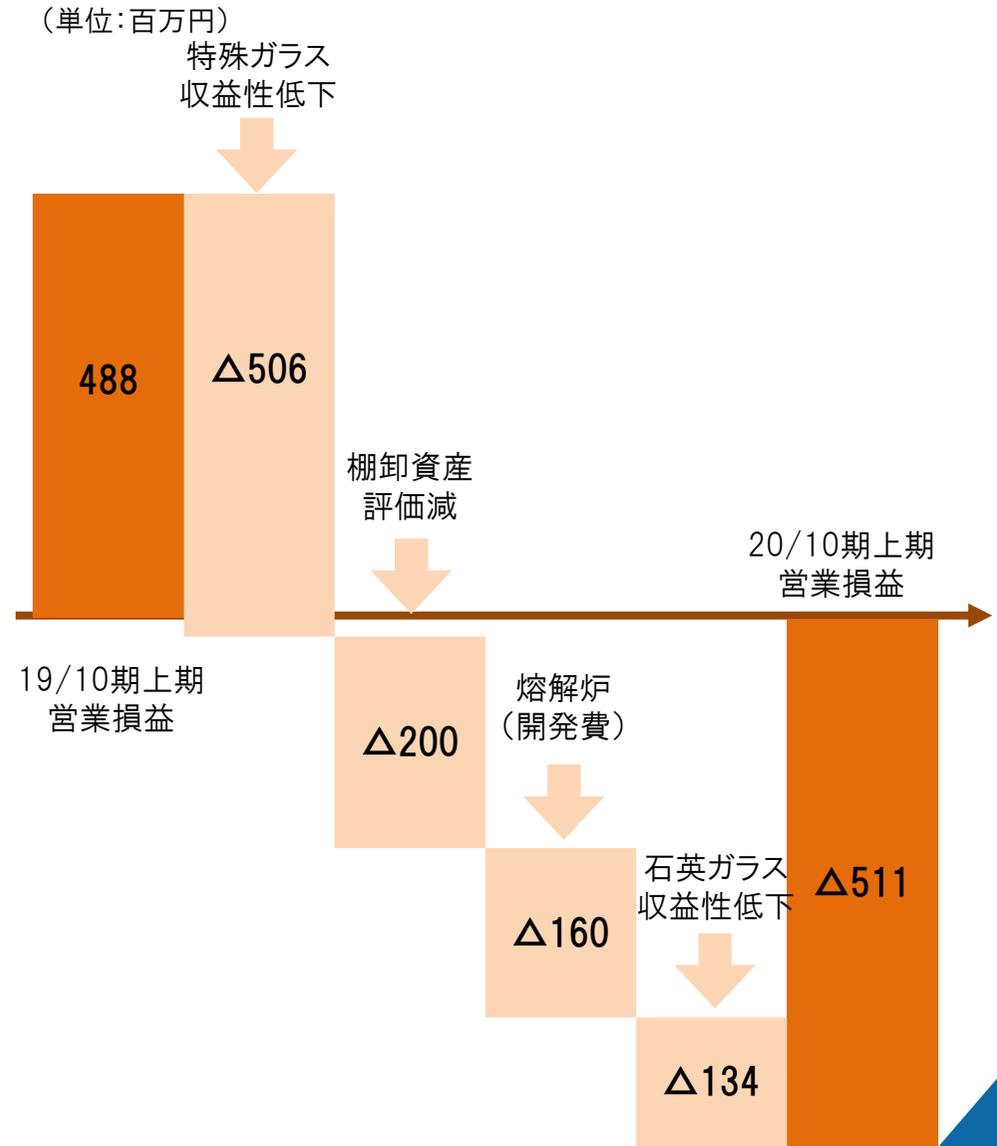
※19/10期 1Qは遡及修正しております

営業損益増減要因

光事業



エレクトロニクス事業



営業CF増減主要因

(単位:百万円)

税金等調整前純損失	△897
たな卸資産の減少による収入	1,123
減価償却費	883

投資CF増減主要因

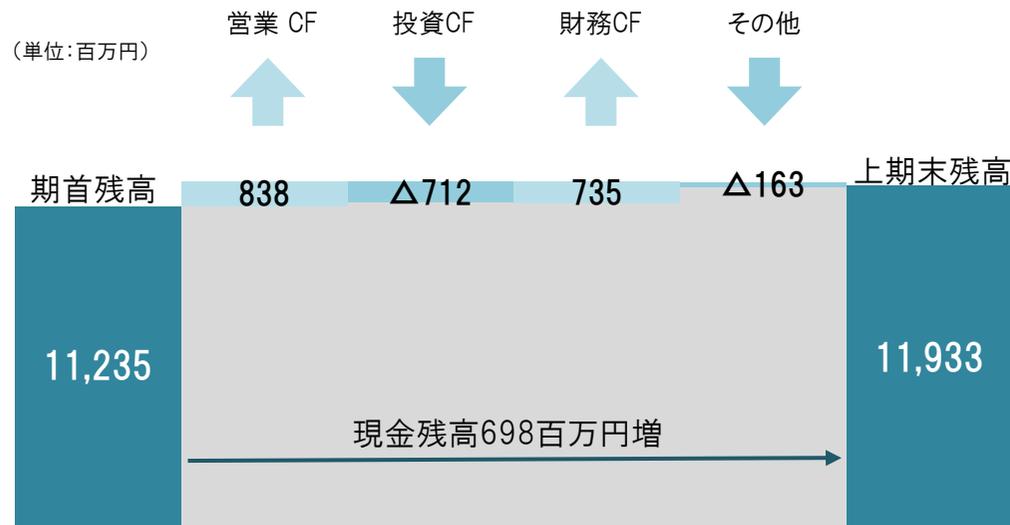
(単位:百万円)

有形固定資産の取得	△484
資産除去債務の履行による支出	△277

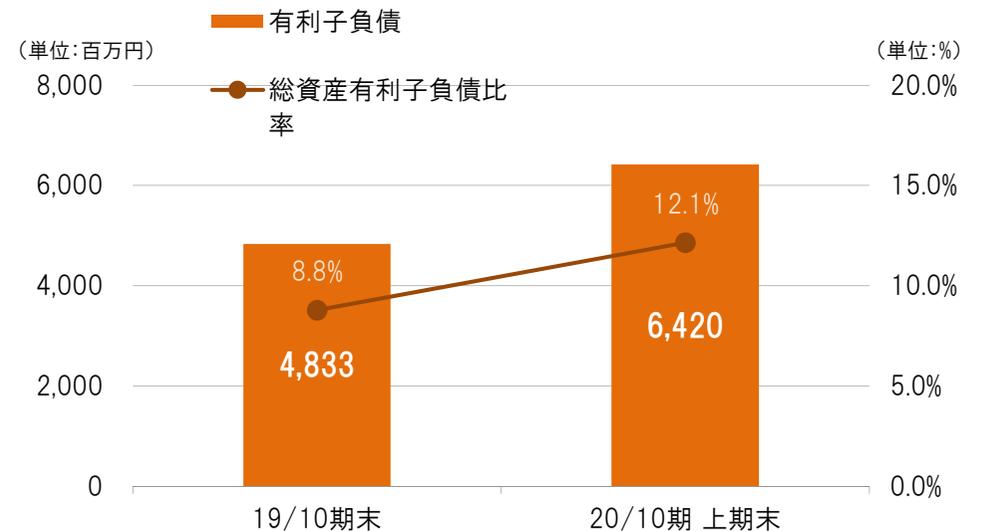
財務CF増減主要因

(単位:百万円)

有利子負債の増加	1,262
配当金	△366



有利子負債

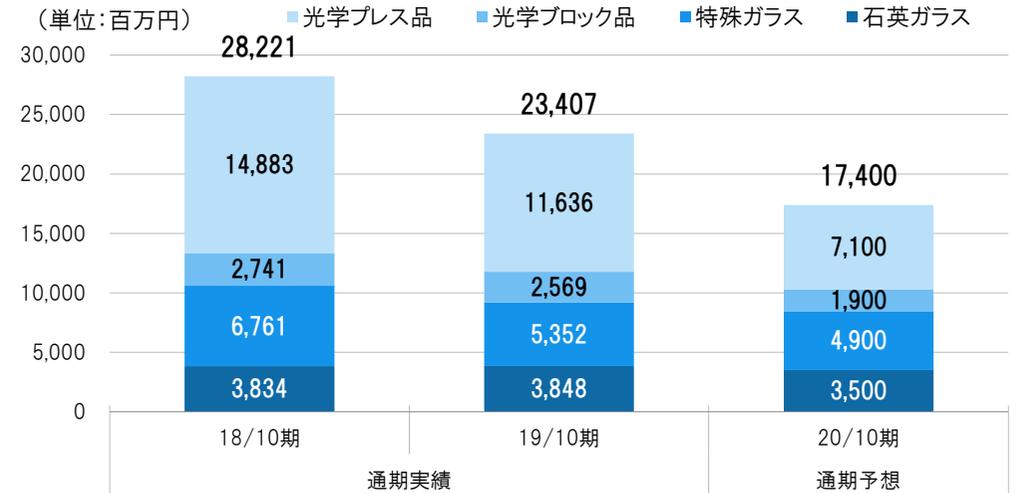


2020年10月期 業績見通し

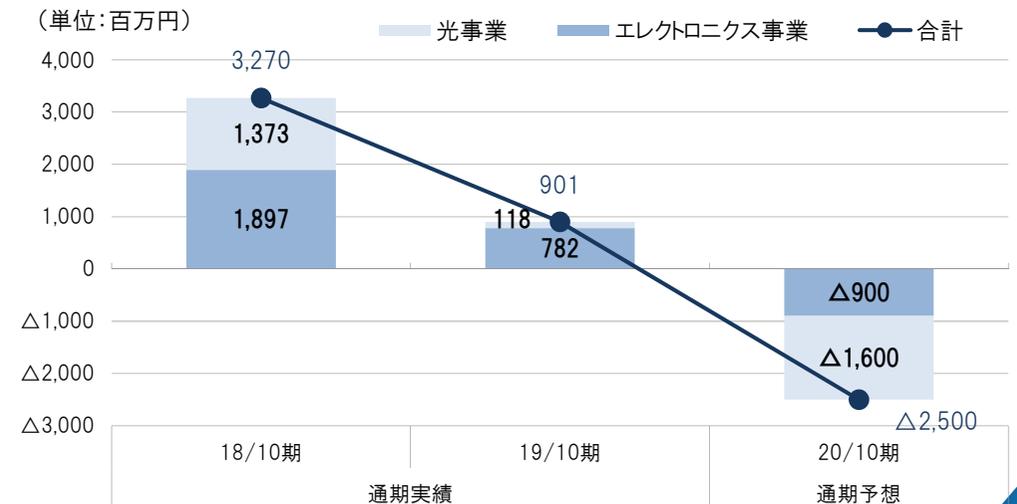
(単位:百万円、%)

	19/10期 通期実績	20/10期 通期予想	増減 増減率
売上高	23,407	17,400	△6,007 △25.7%
営業利益	901	△2,500	△3,401
[営業利益率]	3.8%	△14.4%	—
経常利益	1,146	△2,200	△3,346
[経常利益率]	4.9%	△12.6%	—
純利益 (親会社株主に帰属)	466	△2,600	△3,066
[純利益率]	2.0%	△14.9%	—
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 109.68 123.30	期中平均 105.00 120.00	
年間配当金 (円)	15.00	未定	

売上高内訳



営業利益内訳



※19/10期は遡及修正しております

新型コロナウイルスの影響は第3四半期より深刻化。光学プレス品は大幅な需要減を見込む

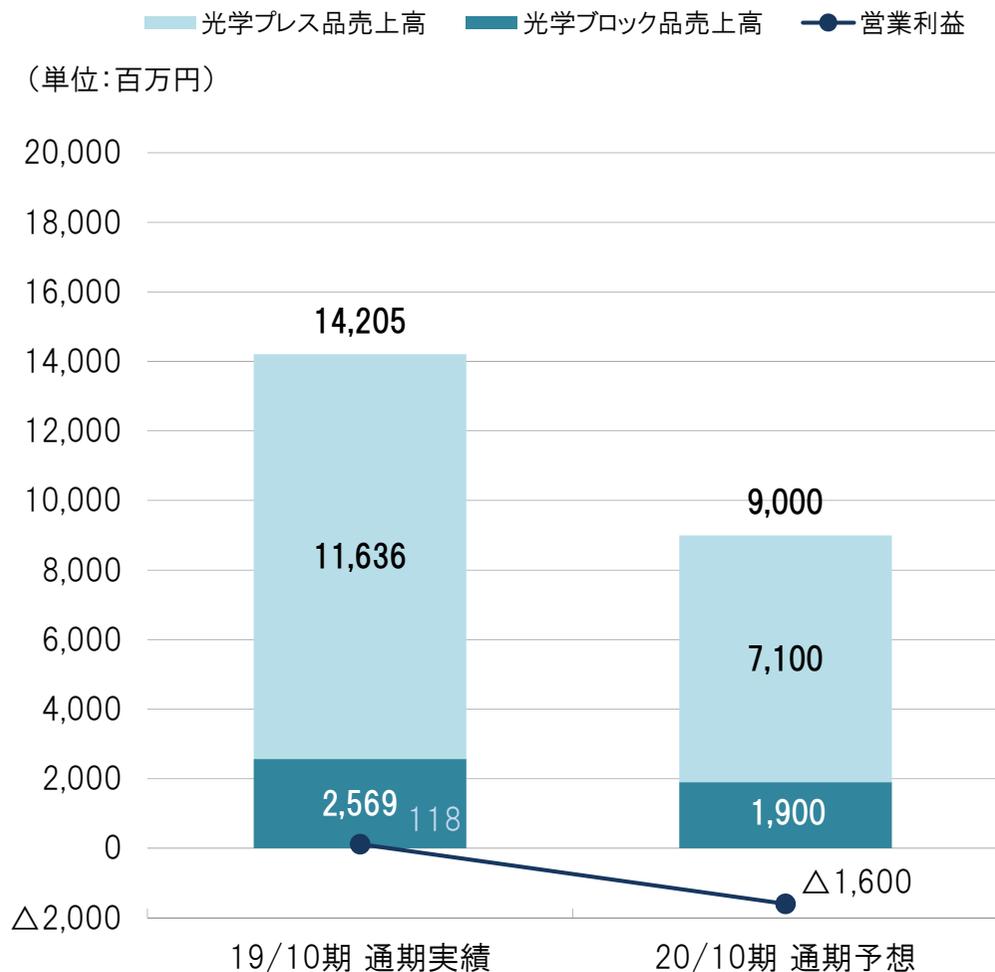
事業環境

- デジタルカメラ市場は、市場の縮小に加え、新型コロナウイルス感染症の影響により、需要が大幅に減少し、当面は弱い動きが続く見込み
- プロジェクター、監視カメラ、車載カメラなどの分野では、高精細化の進展により、品質の高い光学ガラスに対するニーズが高まる見込み

当社状況

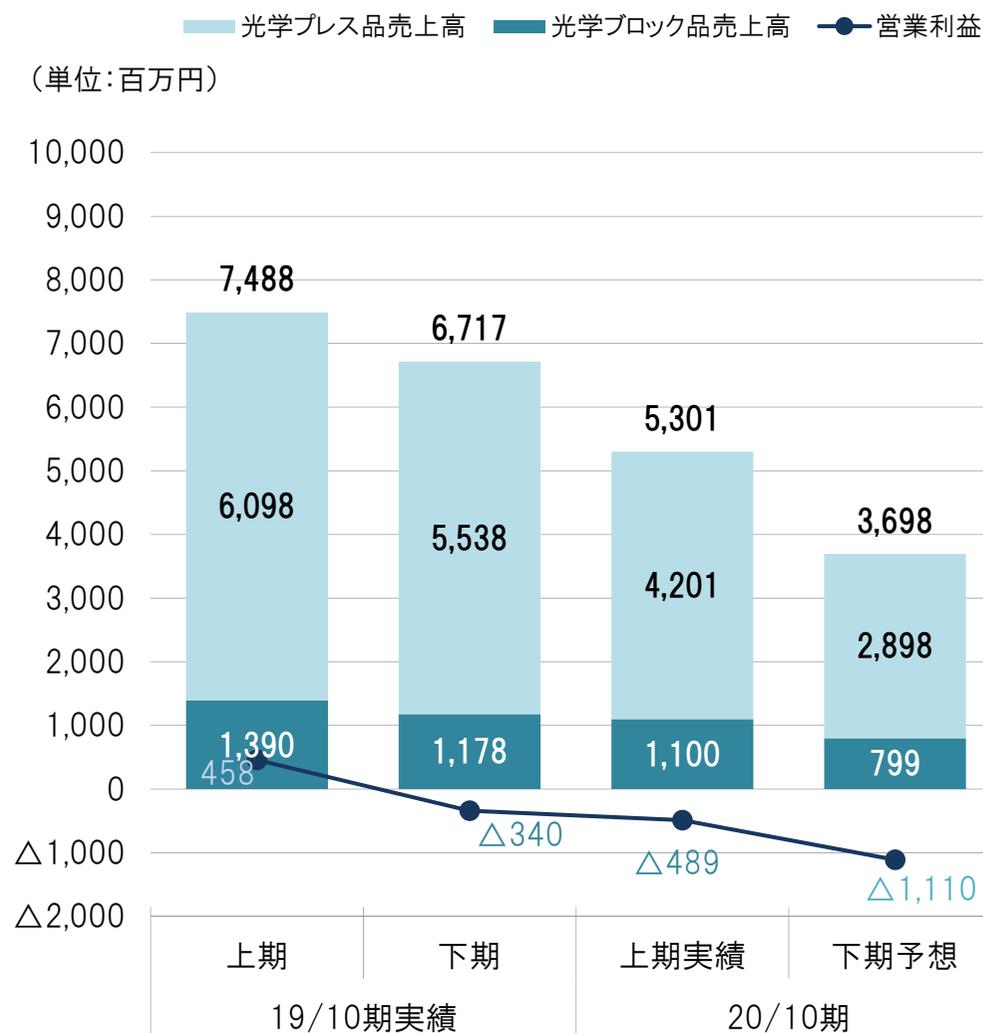
- 新型コロナウイルスの影響は第3四半期より深刻化する見込み
主力製品である光学プレス品の販売に関しては、大幅な需要減を見込む
現時点で入手可能な情報をもとに、光学プレス品の販売は、第3四半期（5月～7月）を底として、第4四半期（8月～10月）にかけて徐々に上向くことを前提に業績予想を策定
- 車載レンズなどに注力することで、デジタルカメラ向け光学プレス品の減少を補う

通期対比



※19/10期は遡及修正しております

半期推移



※19/10 上期は遡及修正しております

「ナノセラム™」は、サプライチェーンの工程認定の遅延が続く見込み

事業環境

■露光装置市場

FPD向け及び半導体向けは、新型コロナウイルス感染症の影響を受けるものの、長期的には堅調に推移する見込み

■光通信市場

第5世代移動通信システム(5G)の環境整備に向けた設備投資が進展する見込み

当社状況

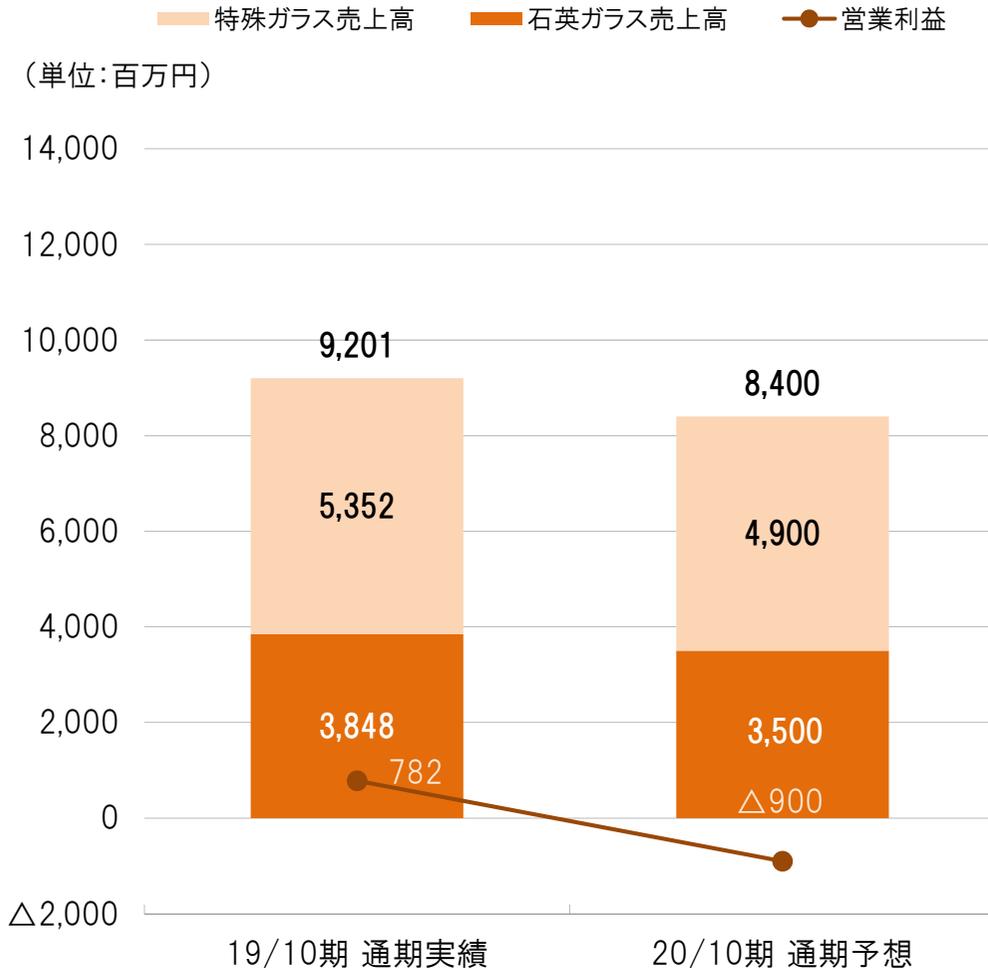
■「ナノセラム™」は、サプライチェーンの工程認定の遅延が続く見込み

■FPD露光装置向け極低膨張ガラスセラミックスの需要は堅調に推移する見込み

■半導体露光装置向け(i線向け)高均質ガラスの需要は堅調に推移する見込み

■光通信機器向けガラス素材「WMS™-15」の需要は堅調に推移する見込み

通期対比



※19/10期は遡及修正しております

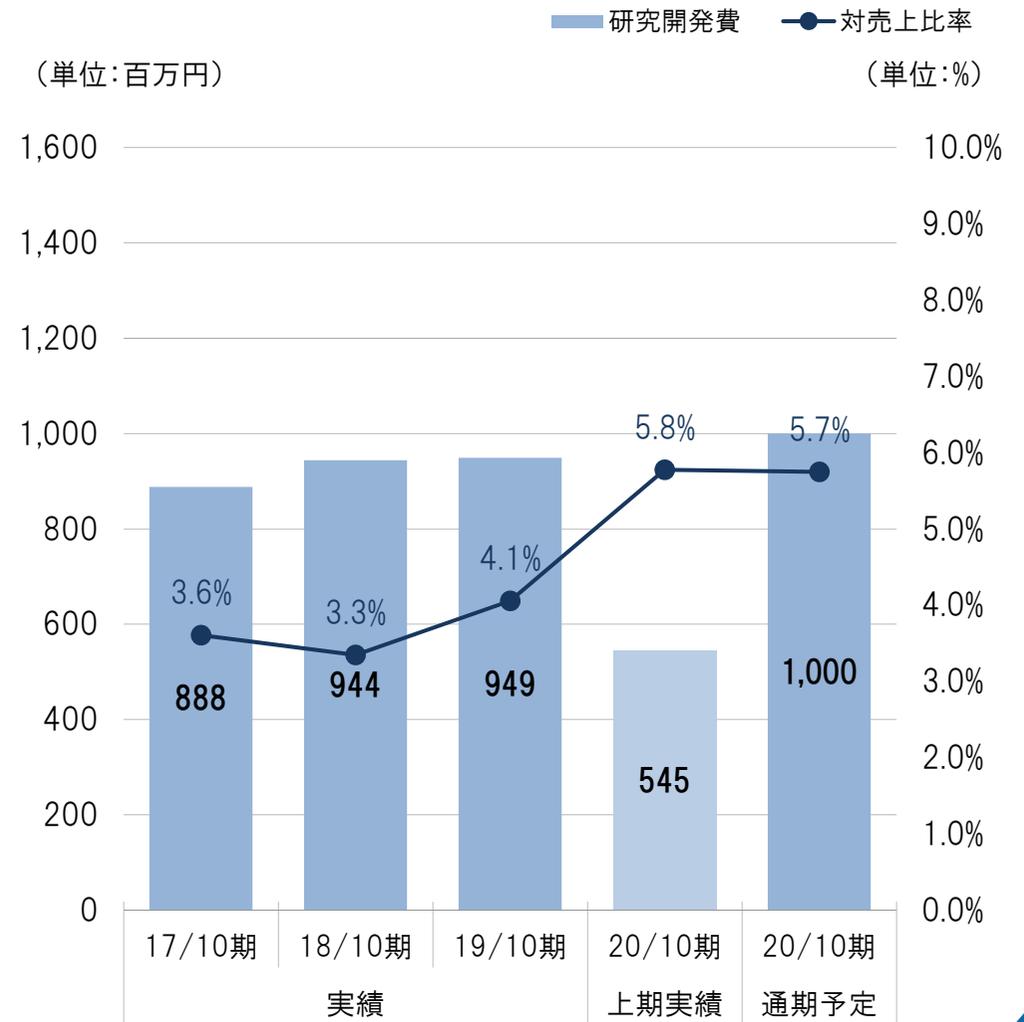
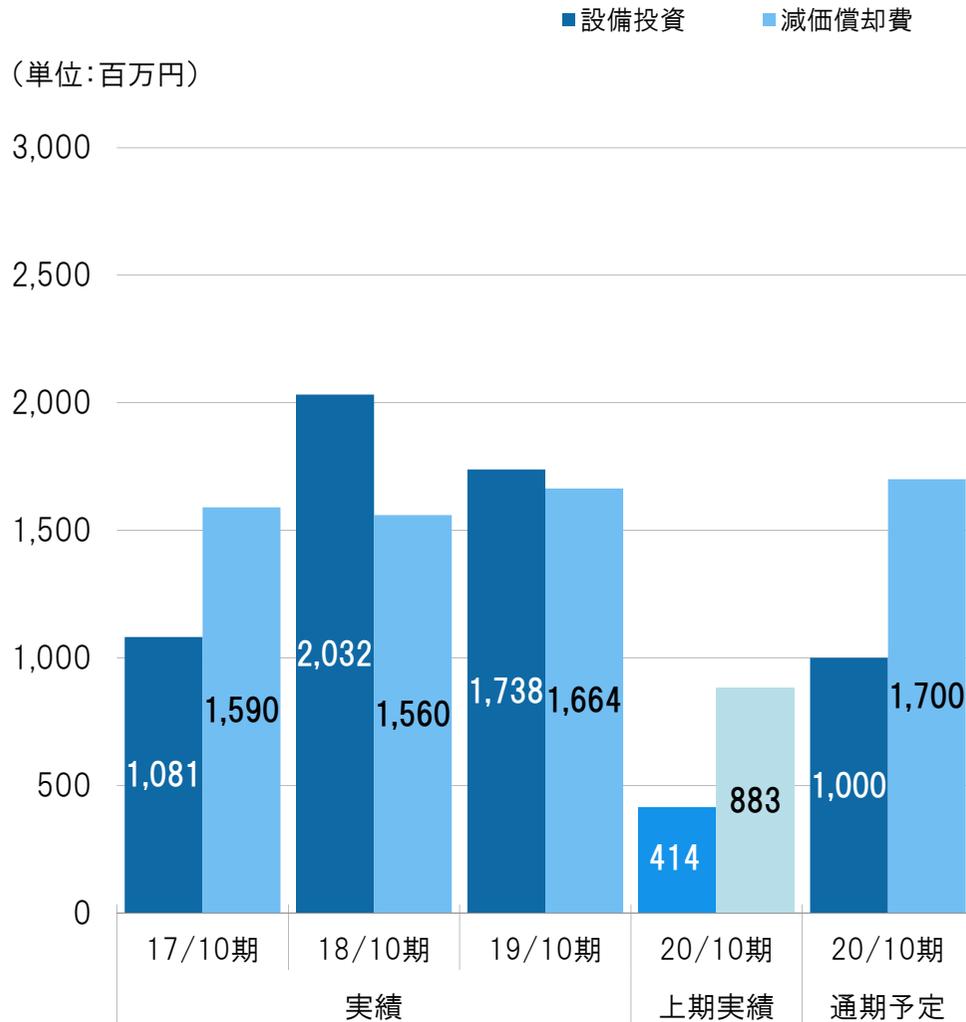
半期推移



※19/10 上期は遡及修正しております

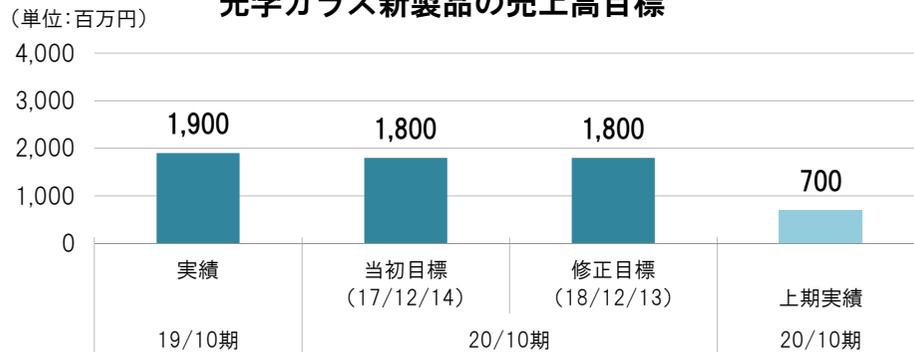
設備投資、減価償却費

研究開発費



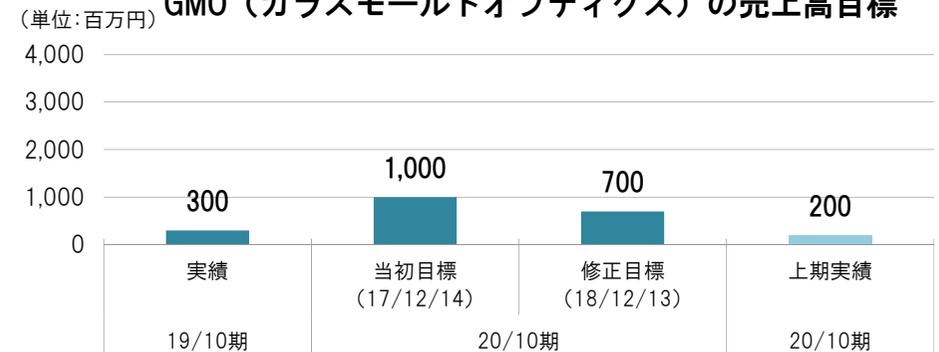
光事業

光学ガラス新製品の売上高目標



※車載カメラ向け以外の新製品も含む

GMO (ガラスモールドオプティクス) の売上高目標



エレクトロニクス事業

ナノセラム™の売上高目標



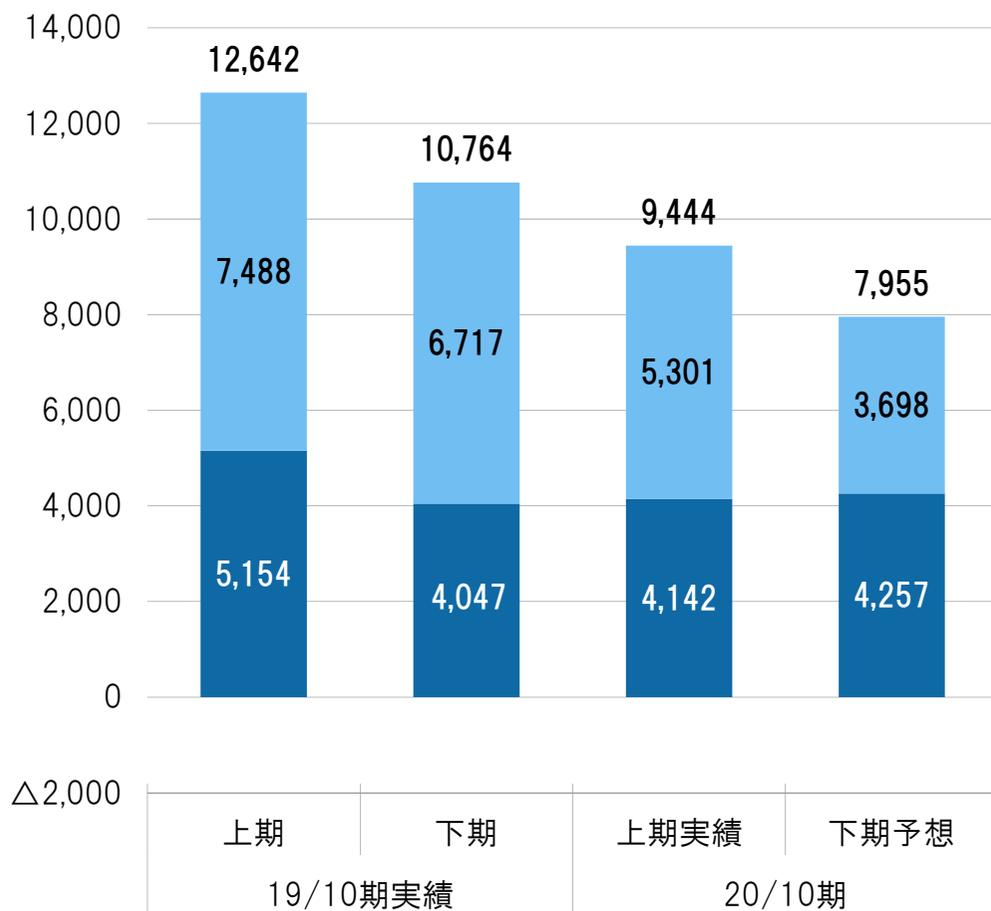
- デジタルカメラ市場の縮小や新型コロナウイルスの影響で、光学ガラスの売上が減少しているものの、新製品は、モバイル・モビリティ用途で着実に需要を獲得している。
- GMOは、顧客からの技術的評価は高く、新規需要に期待。
- ナノセラム™は、スマートフォン筐体向けで、量産試作評価進行中。新型コロナウイルスによる影響でスケジュールが遅延しており、20/10期の売上は見込めない状況。
- 中期経営計画の戦略・方針は不変とし、新型コロナウイルスの影響が収束次第、構造改革を加速することで業績立て直しに注力する。

Appendix(参考資料)

売上高

■ 光事業 ■ エレクトロニクス事業

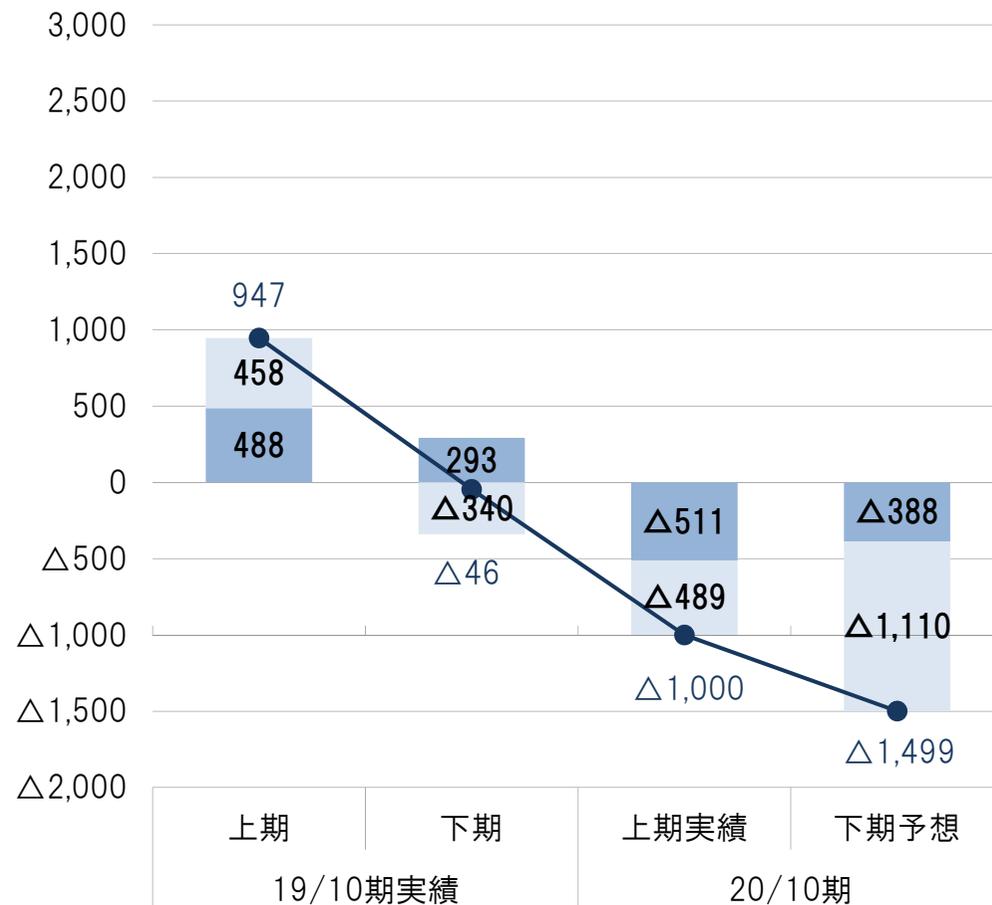
(単位:百万円)



営業利益

■ 光事業 ■ エレクトロニクス事業 ● 合計

(単位:百万円)



※19/10 上期は遡及修正しております

Copyright© 2020 OHARA INC. All Rights Reserved.

上期業績予想と通期業績予想のまとめ

上期

(単位:百万円、%)

	期首予想 (19/12/12)	前回予想 (20/03/12) 期首予想を取り下げ 未定	実績 (20/06/11)
売上高	10,200	—	9,444
光事業	6,200	—	5,301
光学プレス品	5,100	—	4,201
光学ブロック品	1,100	—	1,100
エレクトロニクス事業	4,000	—	4,142
特殊ガラス	2,400	—	2,362
石英ガラス	1,600	—	1,780
営業利益	△500	—	△1,000
光事業	△350	—	△489
エレクトロニクス事業	△150	—	△511
経常利益	△350	—	△897
純利益(親会社株主に帰属)	△550	—	△1,134
為替レート	期中平均	期中平均	期中平均
円/1USD	105.00	—	108.80
円/1EUR	120.00	—	119.87

通期

(単位:百万円、%)

	期首予想 (19/12/12)	前回予想 (20/03/12) 期首予想を取り下げ 未定	今回予想 (20/06/11)
売上高	22,800	—	17,400
光事業	12,500	—	9,000
光学プレス品	10,500	—	7,100
光学ブロック品	2,000	—	1,900
エレクトロニクス事業	10,300	—	8,400
特殊ガラス	6,900	—	4,900
石英ガラス	3,400	—	3,500
営業利益	800	—	△2,500
光事業	△150	—	△1,600
エレクトロニクス事業	950	—	△900
経常利益	900	—	△2,200
純利益(親会社株主に帰属)	600	—	△2,600
為替レート	期中平均	期中平均	期中平均
円/1USD	105.00	—	105.00
円/1EUR	120.00	—	120.00
年間配当金(円)	15.00	未定	未定

中国
小原光学(中山)有限公司 華光小原光学材料(襄陽)有限公司



日本
(株)オハラ



(株)オハラ・クオーツ



(株)オーピーシー



米国
Ohara Corporation



ドイツ
OHARA GmbH



香港
小原光學(香港)有限公司



マレーシア
OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.



台湾
台灣小原光學股份有限公司 台灣小原光學材料股份有限公司



商号：株式会社オハラ（OHARA INC.）
 所在地：神奈川県相模原市中央区小山1-15-30
 創立：1935年(昭和10年)10月1日
 資本金：58億5千5百万円
 事業内容：光及びエレクトロニクス事業機器向けガラス素材の製造、販売
 従業員：連結1,606名(単体436名) (2019年10月31日時点)
 発行済株式総数：25,450,000株
 株主数：9,079名 (2020年04月30日時点)



代表取締役社長執行役員
齋藤弘和

役員一覧

役名	氏名	職名
代表取締役社長執行役員	齋藤 弘和	経営全般
取締役専務執行役員	中島 隆	コーポレート統括
取締役常務執行役員	青木 哲也	営業、マーケティング統括
取締役常務執行役員	後藤 直雪	生産、技術、知的財産統括
取締役(社外)	市村 誠	
取締役(社外)	戸倉 剛	
取締役(社外)	内田 省寿	
取締役(社外)	軒名 彰	
常勤監査役	原田 洋宏	
監査役(社外)	高木 晴彦	
監査役(社外)	長島 和彦	
監査役(社外)	杉田 光義	

大株主

(2020年04月30日時点)

	株主名	持株数 (千株)	持株比率
1	セイコーホールディングス(株)	4,702	19.3%
2	キヤノン(株)	4,694	19.3%
3	京橋起業(株)	4,688	19.3%
4	三光起業(株)	1,651	6.8%
5	(株)トプコン	673	2.8%
6	セイコーインスツル(株)	610	2.5%
7	オリンパス(株)	400	1.6%
8	日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	219	0.9%
9	CACEIS BANK LUXEMBOURG BRANCH/ UCITSCLIENTS (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	203	0.8%
10	J.P. MORGAN BANK LUXEMBOURG S.A.1300000 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	184	0.8%

※持株比率は、自己株式1,110千株(株式給付信託保有分含む)を控除して計算

- 1935 10月: 小原甚八が小原光学硝子製造所を創立、東京蒲田にて操業開始
- 1936 11月: 光学ガラス熔解開始
- 1944 2月: 株式会社に改組、神奈川県相模原に工場を新設
- 1954 5月: 白金坩堝熔解開始
- 1958 4月: ランタンガラス生産開始
- 1961 1月: 連続熔解ストリップ方式生産開始
- 1962 10月: 足柄光学株式会社の株式取得
- 1969 7月: オハラガラス、アポロ11号に搭載
- 1975 8月: 低屈折低分散ガラス(S-FPL51)生産開始
- 1981 8月: Ohara Optical Glass Inc.(米国)(現・Ohara Corporation)設立
- 1982 3月: オハラガラス、スペースシャトル・コロンビア号に搭載
- 1983 3月: ステッパー用ハイホモガラス($\Delta n_d \pm 0.5 \sim \pm 1.0 \times 10^{-6}$)量産開始
- 1984 3月: 高エネルギー物理学研究所へチェレンコフガラス納入開始
- 1985 5月: 株式会社オハラに社名変更
- 1986 9月: 台湾小原光学股份有限公司設立
- 1987 3月: 紫外線(365nm)高透過ガラス生産開始
5月: 有限会社オーピーシー(現・株式会社オーピーシー)設立
- 1988 8月: 結晶化ガラス生産開始
- 1990 1月: OHARA GmbH(ドイツ)設立
- 1991 9月: 環境対策光学ガラス生産開始
11月: OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.(マレーシア)設立
- 1993 3月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラムTM-Z)生産開始
- 1994 11月: ハードディスク基板用ガラスセラミックス生産開始
- 1997 3月: 光学ガラス推奨112種類(当時)のすべてをエコ化
- 1998 4月: ISO9001認証取得
- 1999 1月: オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラSCに搭載
- 2000 1月: 低光弾性ガラス生産開始
4月: ISO14001認証取得
10月: 真空紫外域屈折率測定受託サービス開始
- 2002 5月: 小原光学(香港)有限公司設立
6月: 大規模連続熔解開始
12月: 小原光学(中山)有限公司(中国)設立
- 2005 10月: 東京証券取引所第一部へ株式上場
- 2006 11月: ファイバー用エコガラス(内視鏡用など)生産開始
- 2007 2月: 低蛍光ガラス(顕微鏡用など)生産開始
9月: オハラガラス、月周回衛星「かぐや(SELENE)」に搭載
- 2008 7月: 株式会社オハラ・クォーツを連結子会社化
- 2011 3月: 華光小原光学材料(襄陽)有限公司(中国)設立(合併)
- 2012 3月: 台湾小原光学材料股份有限公司設立
8月: オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラHSCに搭載
- 2013 5月: リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス(LICGCTM)発売開始
- 2014 2月: ハードディスク用ガラス基板事業からの撤退
3月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラムTM-Z)、TMT天体望遠鏡に採用
- 2015 3月: 非球面ガラスモールドレンズ量産供給開始
12月: 耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス(ナノセラムTM)発売開始
- 2016 8月: リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス(LICGCTM)を使用した全固体電池試作品が-30°Cで駆動
- 2017 5月: 世界初、車載カメラ専用光学ガラス材発売開始
12月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラムTM-Z)、超低高度衛星技術試験機「つばめ(SLATS)」に採用
- 2018 6月: NEDO先進・革新蓄電池材料評価技術開発(第2期)へ参加
8月: 非球面ガラスモールドレンズ新工場稼働開始
- 2019 1月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラムTM-Z)、キヤノン電子の超小型人工衛星初号機に採用
2月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラムTM-Z)、国内最大の望遠鏡「せいめい」に採用
3月: 足柄光学株式会社を解散

主要製品

製品カテゴリ

光学プレス品

レンズブランク



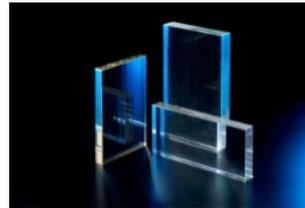
研磨プリフォーム (レンズ加工品)



ガラスモールドレンズ (GMO)

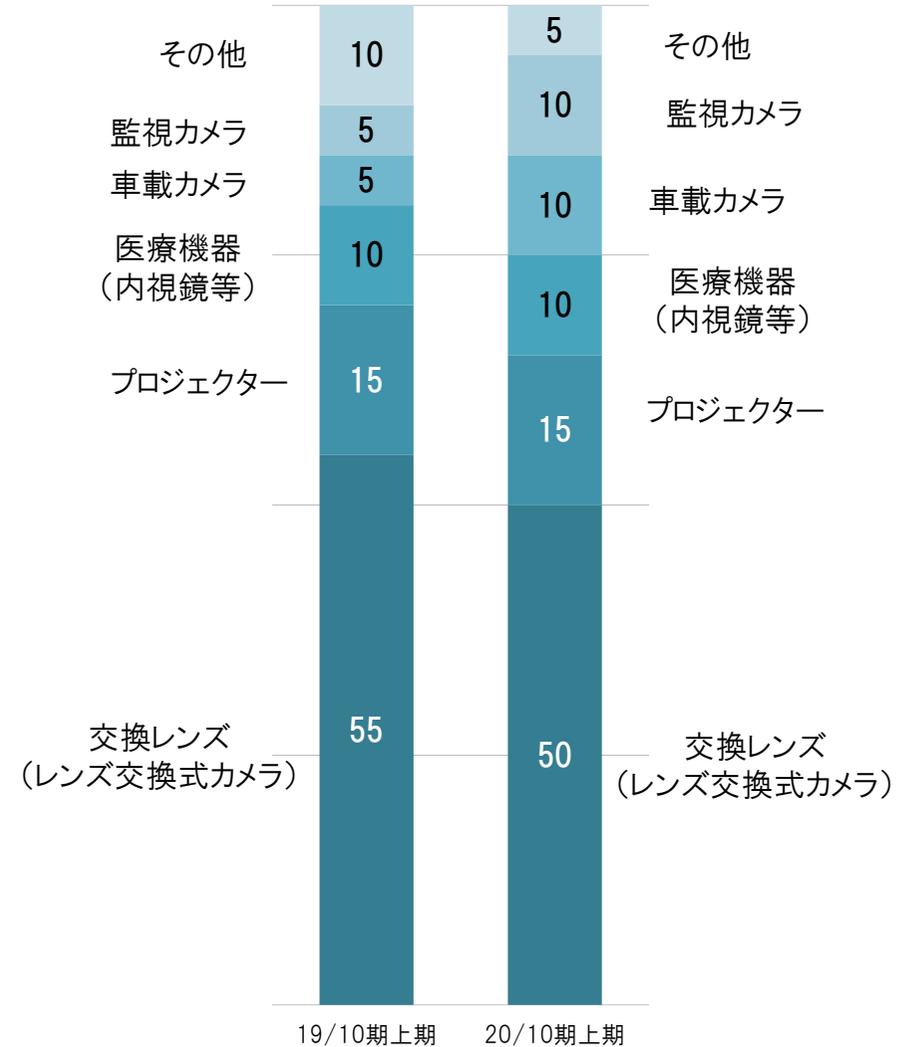


光学ブロック品



※光学ガラスを納品形態により分類。組成の種類(硝種)は約150種

売上高の用途別比率 (単位:%) ※当社想定

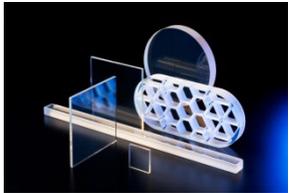


主要製品

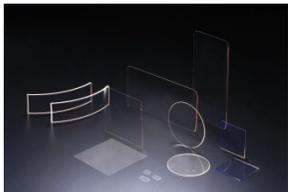
製品カテゴリ

特殊ガラス

極低膨張ガラスセラミックス
クリアセラム™-Z



耐衝撃・高硬度
クリアガラスセラミックス
ナノセラム™



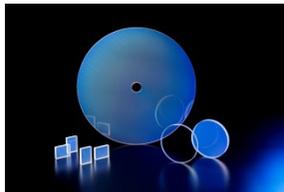
リチウムイオン伝導性
ガラスセラミックス
LICG™



線用高均質性
光学ガラス



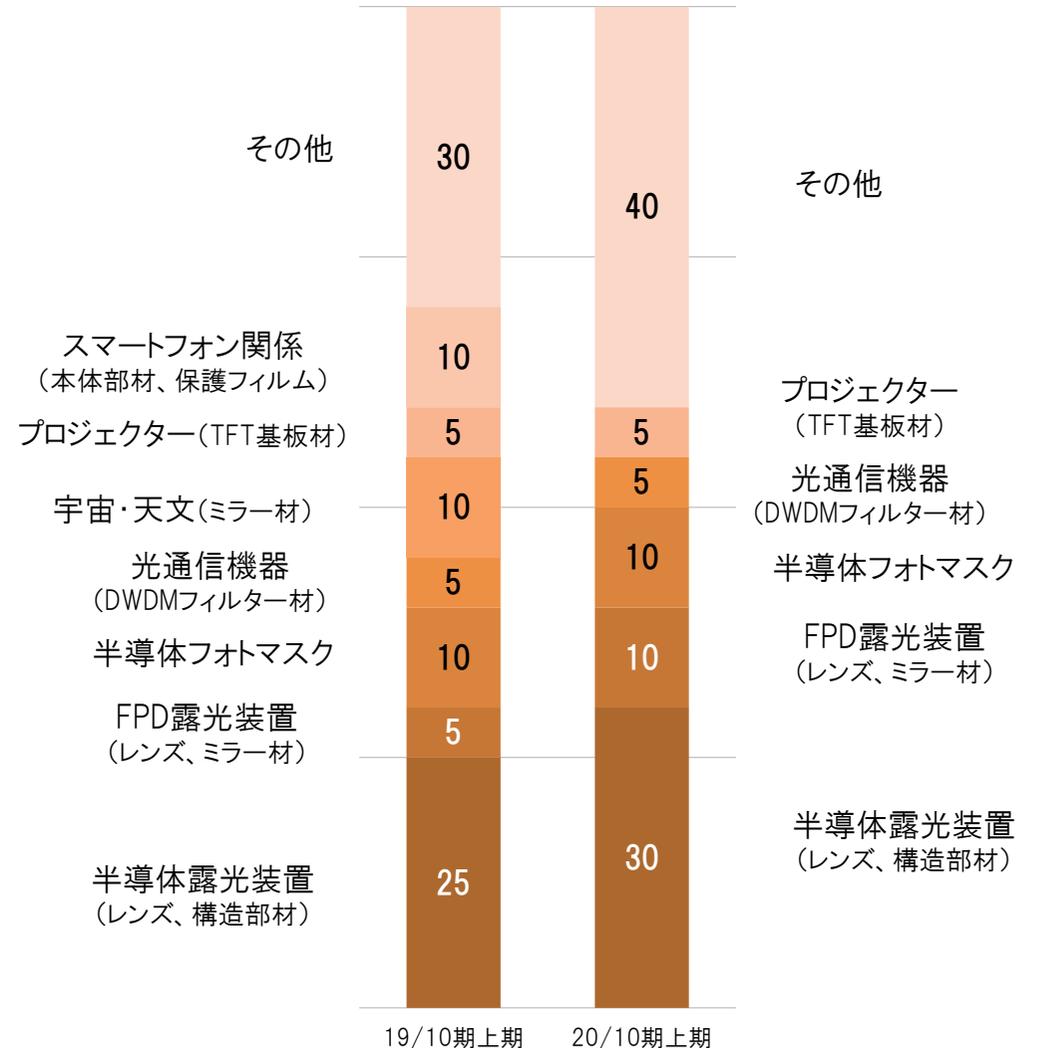
光通信機器向け
ガラス素材
WMST™-15



石英ガラス



売上高の用途別比率 (単位:%) ※当社想定



光学ガラスの代表的な製造工程



経営理念

オハラグループは、常に個性的な新しい価値を創造して、強い企業を構築し、オハラグループ全員の幸福と社会の繁栄に貢献します。

コーポレート・メッセージ

ブランドスローガン

ひかる素材で、未来をひらく

オハラが願う
未来・社会の姿

安心で快適な生活。
創造と希望にあふれた社会。
健やかな地球。

オハラの
使命

いつの時代も新たな素材の可能性を追求し、
多様なパートナーとともにかたちにするので、
「生活・文化の向上」「フロンティア開拓」「地球環境の改善」に貢献する。

オハラの提供価値

ひかる素材で、お客様の「できる」につなげる。

価値観・姿勢

真摯に向き合う
妥協なきものづくり
挑戦のグッドサイクルを回す
All OHARAでいく
互いに認め合い、成長しよう

ひかる素材で、未来をひらく

OHARA

- ◆ 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料(計画を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ◆ ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
- ◆ この資料の著作権は株式会社オハラに帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。